

(第6条関係)

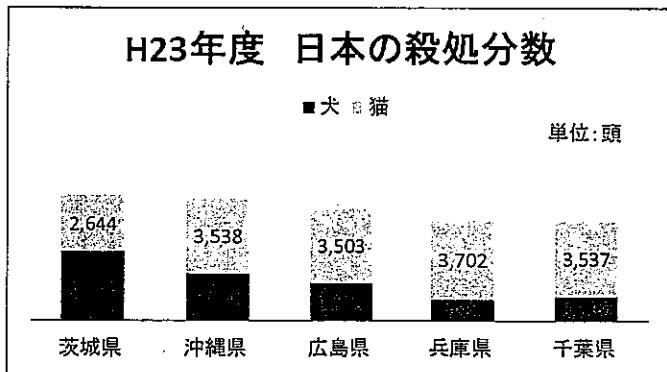
事業計画書

事業名	人も動物も幸せに生きる社会をつくる事業
団体名	動物福祉団体いのち

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含め記載して下さい。

【背景】

- ・日本国内における犬猫の殺処分数は、昭和49年(1974)の約125万頭から平成23年(2011)には18万頭へと、40年間で約1/7となった。
- ・時代の流れは減少傾向であるが、依然として年間18万頭ものペットが飼育放棄され処分されており、決して少ないとは言えない。
- ・松戸市を含む千葉県の殺処分数は、全国ワースト5位(平成23年度)であり、千葉県としてもホームページに「大きな課題として認識」と掲載するなど、憂慮されている問題である。



H23 環境省データより

【課題】

- ・猫の引取り数の減少が鈍化しており、これらはノラ猫問題に起因するといわれている。
- ・殺処分は終生飼主が責任を持ち飼養し、適切な去勢・避妊がされればなくなる問題であるが、処分ゼロを実現しているドイツ等に比べ、日本では未だ問題の周知・意識とも高くはない。
- ・松戸市人口は48.5万人(H24)、政令市(人口50万上)規模であるが保健所も担当課もない。

2. 事業を行う事でどのような事を達成したいのか、どのような成果があるのか、成果目標を記載して下さい。(事業を実施した場合に得られる成果目標は、数値を用いて簡潔に記載して下さい)

【達成したいこと】

市政 70 周年標語「やさシティ松戸」実現のため、松戸市に「広く市民に開かれ活力ある動物愛護団体」を作る。そのため犬猫殺処分の現状と、当団体の存在と活動を多くの人に知ってもらう。

【目的】

- ・殺処分問題の周知・啓発 及び 団体コアメンバー集めの契機とする。
- ・上映会終了後、共感してくれた意識の高い市民をメンバーとして迎え、松戸を拠点に活動推進する母体を築く。(過去の経験から、映画を観た 1 割程度が新メンバーとして参加してくれたため)

【成果目標】

- ・7月に松戸市「森のホール小ホール (516 席)」にて大規模上映会を 3 回 (1 日) 開催する。
- ・周辺の町会や小中高等学校へも呼びかけ、生徒には無料で来てもらう。
100 名×3 回=300 名 (目標値) 516 人×3 回=1,548 人 (最大値)
- ・7月の大規模上映会で、市内で活動できるコアメンバーを 5 名獲得する。
- ・8月以降は新メンバーと共に 4 回の勉強会を開催、市内での愛護活動推進土台を作る。

3. 事業内容を具体的に記載して下さい。

・事業内容

- ① 犬猫の殺処分がテーマの自主上映会を開催。2ヶ月に1回 (奇数月・第四土曜日・松戸市内)
- ② 殺処分ゼロ目標を共有・推進する人的ネットワークの構築と、そのための場作り。具体的には有識者を招いて勉強会、啓発活動など。(H26 年度は 2ヶ月に 1 回実施)
- ③ WEB・ブログ・SNS を通じた啓発・情報発信。(ほぼ毎日更新)

・想定されるスケジュール (事業内容について具体的な取り組みを下記のとおり記載して下さい)

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4 月	・関係者打合せ ・大規模上映準備 (1)	・市内会議室 ・会場の下見、広報先の見積もり・調査
5 月	・関係者打合せ ・大規模上映準備 (2)	・市内会議室 ・宣伝材料発注、関係者へ連絡

6月	・関係者打合せ ・大規模上映準備(3)	・市内会議室 ・チラシ配布、宣伝
7月	・大規模上映会開催(3回)	・森のホール(小ホール) (午前:学生 午後:一般) ・関係者へ御礼・報告(礼状等)
8月	・関係者打合せ ・第1回勉強会 準備	・市内会議室×2回 ・有識者への連絡、チラシ発注、宣伝
9月	・第1回勉強会 開催	・市内会議室
10月	・関係者打合せ ・第2回勉強会 準備	・市内会議室×2回 ・有識者への連絡、チラシ発注、宣伝
11月	・第2回勉強会 開催	・市内会議室
12月	・関係者打合せ ・第3回勉強会 準備	・市内会議室×2回 ・有識者への連絡、チラシ発注、宣伝
1月	・第3回勉強会 開催	・市内会議室
2月	・関係者打合せ ・第4回勉強会 準備	・市内会議室×2回 ・有識者への連絡、チラシ発注、宣伝
3月	・第4回勉強会 開催	・市内会議室

4. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

【目標】

2024年までに日本から犬猫の殺処分をゼロにする。

(→そのためには) 松戸市を含む千葉県で殺処分数ゼロから取り組む。

(→そのためには) 活動拠点の松戸市が「動物愛護先進市」として認知されるよう活動する。

【助成金終了後 取り組みたいこと】

■次世代へ「いのちの教育」

(背景)

・TVゲームやSNS等が普及、バーチャルな「つながり」は広まったが「いじめ」「虐待」など、命が軽視されたニュースを聞かない日はない。

・高齢・おひとりさま社会であり淋しさからペットを飼う人も多いが、意識は追いつかず殺処分は続いている。今こそ全年代で動物との真に成熟した付き合い方を身につけていく時期である。

(提案)

- ・次世代育成支援として「いのちの教育」活動を推進する。(上映会・啓発活動)
- ・市内町会と連携し、松戸の地域猫活動を推進する。(パンフレット配布・啓発・講習会)

【成果目標】

- ・(H27)市内上映会 10 校以上の教育機関で開催。(殺処分削減に啓発は不可欠)
- ・(H27)パンフレットを 5 万部 (松戸市人口の 1/10) 印刷・配布する。

■市政 70 周年「やさシティ松戸」を実現

(背景)

- ・関連産業は国内市場 2 兆円ともいわれ、既に生活に大きな存在のペットだが、市民の飼養意識が高いとはいえ、ノラ猫等課題も依然多い。だが松戸市には愛護センターも担当課もない。
- ・震災後、松戸市はホットスポットと報道がなされ、H23 年度から人口減に転じた。
- ・隣接する流山市は「子育てにやさしい街」(つくばエクスプレス開通により都心に近いのに自然豊か、働きながら子育て可能)のイメージ作りに成功、若年層の移住が多くなっている。

(提案)

- ・「人にも動物にもやさしい松戸市」との認知が広がれば「全年代にとって住みやすい街」のイメージ形成に貢献する。
- ・動物愛護意識の高い住民の集まる市と認知されれば、松戸市に良い影響が期待できる。

【成果目標】

- ・(H26 年度) 松戸市内に動物についての担当課設置を検討してもらう。
- ・中長期的 (10 年以内) には松戸市が「日本の動物愛護先進市」と呼ばれることが目標。

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

科目		金額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 56,000	会員より寄付
	自己資金合計額 (a①)	¥ 56,000	
	入場料	¥ 100,000	午前 (0円) + (午後2回*500円*100人)
	事業費収入額 (a②)	¥ 100,000	
	団体より拠出金 (対象外経費分) (a③)	¥ 18,000	対象外経費を団体会計より拠出
	自己資金、事業費収入合計額 (A) = (a①+a②)+a③	¥ 174,000	
	市 市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 274,000	

【支出】

科目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	賃借料	¥ 63,000	森のホール小ホール賃料 (全日) 63,000 円
		¥ 6,000	会議室借料 (勉強会) 300円*5時間*4回分
	印刷製本費	¥ 55,000	広報チラシ・ポスター 5円*10000枚 (B5チラシ) 印刷代 50円*100枚 (B3ポスター)
	消耗品費	¥ 7,000	コピー用紙 500円 (500枚入り) *4P 筆記用具 (鉛筆) 100円 (3本) *50
	使用料	¥ 125,000	配給会社へ支払う 30,000円 + (30,000+25,000)円 上映料金 (3回分) + (40,000円) ※1回100人動員の場合
	対象経費の合計 (D)	¥ 256,000	
	その他経費		¥ 10,800
		¥ 7,200	会議室借料 (勉強会打合せ) 300円*3時間*8回 (8月以降勉強会用)
その他経費の合計 (E) = (a③)		¥ 18,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 274,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が、対象となる経費 (D) 欄の90%以内であること。
- 2 自己資金 (a①) 欄が、「対象経費 (D) 欄の10%以上」であること。
- 3 自己資金 (a①) 欄が、「対象経費 (D) - 事業費収入額 (a②) - 市民活動助成金 (B)」と同額となること。
- 4 助成金 (B) が、1事業あたり10万円以内であること。
- 5 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。